

意見交流を通して評論文の読解を深める —iPadを活用した授業—

- 1 科目名 国語総合（現代文）
- 2 単元名 評論
- 3 教材名 宇野重規「〈私〉時代のデモクラシー」
- 4 単元の内容

単元の内容	<p>① 単元の目標</p> <p>ア 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。（読む能力）</p> <p>イ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりしようとする。（関心・意欲・態度）</p> <p>② 単元の目標設定の理由</p> <p>・本校の生徒たちは、何事にも素直に自分から取り組む姿勢が見られる。教科書の本文に対しても積極的に読解を深めようと取り組むが、抽象的な語彙の理解が不足しており、読解の障壁となることが多い。そこで、苦手意識を持ちがちな抽象語彙について、身近な例文を作ったり実際に使用したりする活動を通して定着を図ろうと考えた。</p> <p>・また、教科書本文に述べられていることについて、当事者意識を持って理解できるよう、授業中にできるだけ生徒の発言を多くするようにし、身近な例を挙げる活動を取り入れて内容理解を促したいと考えた。</p> <p>③ 中心となる学習活動</p> <p>・事前の家庭学習として、プリントの語句調べを行う。辞書を引いて分からない語句を調べ、授業中にペアワークやグループワークで確認する。</p> <p>・教科書本文で筆者が指摘する課題を自分なりの視点で捉え、理解する。そのために、筆者が述べていることの例を日常生活の中で探したり、自分たちの生活の中ではどのようなことが該当するのかを具体的に考えたりする。</p> <p>④ 言語活動の工夫</p> <p>・抽象的な語彙の習得について、ただ辞書を引いて調べるだけではなく、自分の言葉で説明したり、例文を作ったりする活動を通して体験的に学べるよう意識した。</p> <p>・教科書本文に書かれている内容が、自分たちが生きる「現代」のことであるということを実感できるよう、日常生活の中から例を探す機会を多く設けた。生徒がスマホ等で調べてきたことや、撮ってきた写真などを共有できるよう、プロジェクターで投影して発表できるようにした。</p> <p>・身近な例を探す活動においては、意見が出やすいようにホワイトボードを活用し、それをiPadで撮影して投影するなど、クラス全体で考えを共有できるようにした。</p>
-------	---

	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
単元の 評価規準と 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークに積極的に参加し、意見を発信できている。 ・本文を自分の生活に引き寄せて理解し、自分の意見を持つようとしている。(机間指導による観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の展開や構成を把握し、内容を理解している。 ・身近な例を想起しながら文章の内容を理解している。(机間指導による観察、指名による確認、ノートの点検) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の組み立てや語句の意味、用法を理解している。 ・抽象的な語句の意味を理解し、具体表現と抽象語彙を相互に変換できている。(机間指導による観察、学習プリントの点検)
成果と課題	<p>明るく楽しい雰囲気での授業を進めることができ、生徒たちの反応も良かった。グループワークやペアワークを多く取り入れ、生徒が能動的に活動する時間をつくれた。今後、模試や入試で問題に向き合い高得点を得るためには、国語に親しんだ素地の上に文法等の知識を積み重ねていく必要があると思う。楽しんで取り組むことを続けながら、個人で考え、個人で理解する力を養うための工夫を考えていかなければならないと思う。</p> <p>また、生徒はICT機器に違和感を持たず、むしろ親近感を持っている。ICTを使うべきではない場面もあるとは思いますが、時間を短縮したり機器を使ってしかできないようなことをしたり、今後もICTを有効に活用する方法を模索していきたい。</p> <p>《生徒の感想より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループやペアで交流すると疑問点をすぐ解決できるし、自分の考えを深められてよい。自分もしっかりやらねばという刺激になる。 ・見たことがないものやイメージのわからないものについて、画像をつけて説明されると分かりやすくてよい。 ・人によってニュアンスが違うので、交流することで新しい発見があった。 		
アドバイス 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ただグループやペアを作るのではなく、「自分と違う意見を聞くために」や「1人では思いつかないアイデアを4人で生み出すために」など、その都度何のためのワークなのかを必ず伝えると良い。 ・ICTの活用については、あまり構えずに気楽にちょっとだけ活用する気持ちで向き合うと良いと思う。1時間のうち1回だけ何かの画像を見せるとか、手元の作品を大きく映して全体で共有するとか、できたらいいと思うことだけ取り入れると自然に活用できるように思う。また、投影できなかった場合のことも考え、有線のコードを準備しておいたり、板書計画を立てておいたりするなど備えておく必要はある。 		
小中学校との 系統性	<p>中学・2年・C読むこと</p> <p>ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。</p> <p>エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つこと。</p> <p>中学・3年・C読むこと</p> <p>イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</p>		

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○分からない語句を無くし、本文に関心を持つ。	<p>・語句調べのプリントを用いて、前半の重要語句の意味を確認し、グループで例文を作る。</p> <p style="text-align: center;">【伝イ(イ)】</p> <p>・第一段(1、2段落)を音読する。</p> <p>・教科書本文で筆者が指摘するCMの例を探す。グループで話し合い、できるだけ多く挙げる。次時に発表。</p> <p style="text-align: center;">【Aエ】</p> <p>*留意点</p> <p>・本文への興味関心を喚起するため、グループワークを取り入れて、できるだけ自由にたくさん発言できる雰囲気を作る。生徒の発言を全面的に肯定して授業を進める。</p>	<p>語句を用いて例文を作ることができ、CMの例を探することができる。【関】【知】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察(交流の様子)</p>	<p>関心の薄い生徒、誤った理解をしている生徒には、グループ活動の際に個別に声をかけて助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業の反応を観察し、必要に応じて個人指導する。</p>
2 本時	○本文の内容を身近な生活に引き寄せて理解する。	<p>・グループで第一段を音読する。</p> <p>・探してきたCMをグループごとにまとめ、発表する。</p> <p style="text-align: center;">【Aイ】</p> <p>・CMのような現象に対して、筆者が疑問を持ち、矛盾を感じていることを本文から理解する。</p> <p style="text-align: center;">【Cエ】</p> <p>・「〈私〉らしくあることがつらいこと」とであると自分が感じる場面はどのようなものがあるか、グループで話し合う。</p> <p style="text-align: center;">【Aエ】</p> <p>・なぜこのような時代になったのか疑問を持つ。</p> <p>*留意点</p> <p>・生徒が生徒自身の生活に引き寄せて本文を理解できるように、身近な例を生徒自身から引き出す。</p>	<p>実例を見ながら筆者の述べる内容を理解できる。【読】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察(交流、発表の様子)</p>	<p>筆者の抱く違和感の理解が難しい生徒には、グループ活動の際に個別に声をかけて助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業の反応を観察し、必要に応じて個人指導する。</p>
3	○本文の「近代」と「現代」の違いを理解する。	<p>・第二段(3～12段落)を音読する。</p> <p>・「近代」がどのような時代であるかを理解する。</p> <p>・「つまり」「しかしながら」「むしろ」といった接続部分に注目しな</p>	<p>「近代」と「現代」の違いを理解できている。【読】</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>「近代」について、また「近代」と「現代」の違いについて理解が難しい生徒には、本文の接続部分</p>

		<p>がら本文の強弱を見分け、読解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近代」と「現代」の違いを理解する。 <p style="text-align: right;">【Cエ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代の結果としての現代を理解するため、共感できる例をできるだけ生徒自身から引き出す。出にくい場合は、他クラスの例を紹介したり、事前いくつか想定しておいたりするなど、準備しておく。 	<p>観察（交流、指名発言の様子）</p>	<p>に注目して全体の構成を理解して読解するよう助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ノートを点検しながら必要に応じて個人指導する。</p>
4	<p>○本文の「社会関係」「個人」「平等」を現代とそれ以前に分けて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語句調べのプリントを用いて、後半の重要語句の意味を確認し、グループで例文を作る。 <p style="text-align: right;">【伝イ（イ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三段（13～20段落）を音読する。 ・現代とそれ以前の二項に分けてノートにまとめ、理解する。 <p style="text-align: right;">【Cエ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二項対比を意識しながら本文を読解するよう指示する。 	<p>語句を用いて例文を作ることができる。</p> <p style="text-align: center;">【関】【知】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察（交流の様子）</p> <p>二項に分けて理解できる。</p> <p style="text-align: center;">【読】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察（ノート）</p>	<p>第三段の本文の分別が難しい生徒には、「社会関係」を例にまず書き出してみるよう助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ノートを点検しながら必要に応じて個人指導する。</p>
5	<p>○筆者の主張を理解する。</p> <p>○「現代」について指定語句を用いて論じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで第三段を音読する。 ・筆者の述べる「私」時代のデモクラシーを理解し、「私たち」をすることで未来を築いてほしいという願いを読み取る。 <p style="text-align: right;">【Cエ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代はどのような時代であるか、「デモクラシー」「ポストモダン」「アイデンティティー」「パラドックス」の中から必ず1つ以上の語句を用いて説明する文章を作ってまとめる。 <p style="text-align: right;">【Cイ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを適切に用いて、学んだことをまとめられるかを評価する。優秀作品は改めて発表の場を設ける。 	<p>筆者の主張を理解できる。</p> <p style="text-align: center;">【読】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察（ノート）</p> <p>「現代」を論じることができる。</p> <p style="text-align: center;">【読】【書】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察（プリント）</p>	<p>論述が難しい生徒には、本文を要約する形でまとめてみるよう助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「現代」について論じた優秀作品を後日改めて紹介し、今後の参考にさせる。</p>

6 第2時の学習指導案

本時の位置	2時間目（全5時間）		
本時の学習目標	ア 筆者の考えを的確に読み取り、詳述できる。（読む能力） イ 本文の内容を自分たちの身近な生活に引き寄せて理解できる。（読む能力） ウ 筆者が指摘する現代の課題に興味を持っている。（関心・意欲・態度）		
事前の準備	①第一段の本文中の語句について、不明な点が無いようにしておく。 ②本時で発表する例（実物）を用意するよう指示しておき、こちらからも提示できるように準備しておく。 ③iPad、プロジェクター、スクリーン等を準備しておく。 ④普段からグループ活動を取り入れ、すぐにグループを作れるようにしておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	<input type="checkbox"/> 前時の復習 <input type="checkbox"/> 本時の目標の確認	①各自のノートや黒板に映した画面を見ながら、前時の復習をする。 ②本時の目標を理解する。	・前時に学習した語句調べや例文作りの成果を投影する。
展開 35分	<input type="checkbox"/> 本文の確認 <input type="checkbox"/> 理解を深める <input type="checkbox"/> 筆者の感じ方の理解 <input type="checkbox"/> 〈私〉らしくあることの理解	③第一段をグループで音読する。 ④グループでCMの例を共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例に見られるような現象について、筆者はどう捉えているか。 </div> ⑤本文や例を通して筆者が違和感を抱いていることを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「少々つらいこと」の例を考えよう。 </div> ⑥グループでできるだけ多くの例を考え、ホワイトボードに書き出す。 ⑦代表者が発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「こんなこと」とはどのようなことか。 </div> ⑧「少々つらいこと」の内容を踏まえ、第二段冒頭「こんなこと」（＝現代の課題）が指す内容を各自ノートにまとめ、その後グループで共有、確認する。	・机間を回って音読のチェックをする。 ・各グループで集めた例を投影する。 目標アに対する具体的評価規準と評価方法 [規準] 筆者の抱く違和感を理解している。 [方法] 机間指導による観察 [状況Cの生徒への手立て] グループ内で意見交流するよう促し、個別に声をかける。 ・各グループにホワイトボードを配付し、時間を区切って例を挙げさせる。 ・代表者に発表させる際、ホワイトボードをスクリーンに投影する。 目標イに対する具体的評価規準と評価方法 [規準] グループ活動で具体例を挙げている。 [方法] 机間指導による観察 [状況Cの生徒への手立て] 「家にいる時」「出かける時」等場面を設定して考えてみるよう助言する。
まとめ	<input type="checkbox"/> 本時のまとめと次時の予告	⑨全体を振り返り、評論の読み方を確認し、筆者の指摘する課題に関心を持つ。	・本文が「例」→「論」の繰り返しであることを整理し、評論の読み方を確認する。 ・次時の予告をする。